

今週のひと

投資用不動産の売買・仲介・管理を行う日本クリード（東京都中央区）。創業して7年、大関真悟CEOは不動産業界だけではなく、社外にも活躍の場を広げている。東日本大震災発生後、即座にボランティア団体を設立し、毎月定期的に被災地で炊き出しを行っている。大関CEOが胸にたぎらす思いとは。



日本クリード
(東京都中央区)
大関真悟CEO(35)

目指せ「透明な不動産会社」 業界に掛ける熱い思い

プロフィール

1977年7月1日、東京都豊島区に生まれる。

人生を変えた中古物件

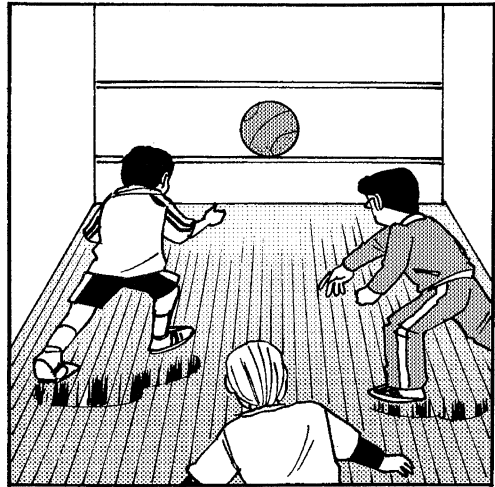
20代のはじめ、中学からの定期貯金を解約し、築33年の家を購入したことが大関真悟CEOの人生に大きな影響を及ぼした。念願かなったかと思いきや、その1年後、家が白アリの被害に侵されていることが発覚。契約書を引っ張り出し、瑕疵(かし)担保責任が2年ついていることが分かったと急いで購入した業者に連絡をした。ところが、いくら問い合わせても連絡はつかなかった。「不動産業界とはこんなにかげんなものなのか。自分の目で確かめてやろうと思いました」と大関社長は振り返る。不動産会社で働き、「確かにお客様に見えない部分が多い。透明度のある不動産会社をつくりたい」という思いとともに、2005年に日本クリードを設立した。

ボランティア活動

東日本大震災後、ボランティア団体「ライフサポート復興を支援する会」を立ち上げた。毎月1~2回、被災地を訪問し、500食前後の炊き出しを行っている。大関CEOは「震災から時間がたつとともに、ボランティアの手が少なくなり、震災が風化してしまうことに不満を感じたのが立ち上げのきっかけ」と語り、全力で復興支援を行うことを誓った。

趣味・・・村づくり

鎌倉の山を仕入れ、カブトムシやクワガタの幼虫を5000匹放し、さらにクヌギの木など虫が好きな木の苗を植えている。夏は社員の家族ともども、大自然の中で遊び尽くす。



石川商事
(神奈川県川崎市)
石川弘行社長(61)

元実力派ストライカー サッカー愛を貫く

川崎市を中心に、約1500戸管理する石川商事

自身も学生時代はセンターストライカーとして活躍したというプレーヤー。日本人初のプロ選手となった奥寺康彦氏と同年代で、肩を並べる点取り屋だったようだ。現代

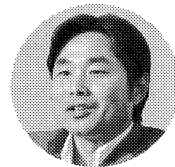
事(神奈川県川崎市)。のサッカーについては、話す。98年のフランスワールドカップでは、石川社長奮気味に話す石川社長だ。男性社長ながら「自分はチョコをもらえなかったからみんなにはあげよう!」と思ひ、配り始めたそうだが、思いのほか好評で、同社の恒例行事になりつつある。チョコレットに添えた

「おいしい寿司を通してそれ以上の癒やしを得ています」と遠藤社長はにっこり笑った。川崎市長は、サッカーを語り出すと止まらない。地元でサッカーチーム、川崎フロンターレに出資しており、社内の壁には、Jリーグ3チームの、全選手のサイン入りユニホームが掛けられている。

取材のうら窓

宮城県・仙台市では、行政と管理会社、入居者の間に行き違いが生じているようだ。多くの入居者がみなし仮設住宅の再契約を希望する中、契約の意向はないと県からA社に連絡が来たことがあったのだとか。A社は

不審に思い、入居者に直接問い合わせると一



Good不動産
(福岡県福岡市)
牧野修司社長(38)

男性社長ながら 特注チョコで恩返し

Good不動産(福岡県福岡市)の牧野修司社長は男性だが、昨年から積極的にボランティア活動にチョコを配っている。

「お返しはお申し込みでお願いします(笑)」仕事も忘れない牧野社長だった。

「自分はチョコをもらえなかったからみんなにはあげよう!」と思ひ、配り始めたそうだが、思いのほか好評で、同社の恒例行事になりつつある。チョコレットに添えた

「Good不動産」の口ゴ入りオリジナルチョコレットを作った配るといっう徹底ぶり。包装・ラッピングは、同社の女性社員が行っているとか。